

暗電流クランプメーター

直流 4000mA レンジを搭載 クランプするだけで暗電流を計測



SK-7831

マニュアルレンジ(4000mA)、オートレンジ(40A/200A) / DC 200A

測定範囲

直流電流：5mA～200.0A

測定項目



機能

偏差測定
 パワーオンインシャライズ
 オートパワーオフ
 ディスプレイホールド

一般仕様

表示	4000カウント、文字高12mm
電源	1.5V R6P(単3)電池2本
消費電力	約78mW
電池耐久時間	約60時間(アルカリ電池使用)
被測定導体径	φ20mm
寸法・重量	203(H)×61(W)×30(D)mm、230g
付属品	1011 キャリングケース、 1.5V R6P(単3)電池2本

SK-7831の特長

直流4000mAレンジを搭載

自動車の暗電流などの微弱電流の計測に必要な不可欠な DC 4000mA レンジを搭載。



パワーオンインシャライズ

電源を入れた時、自動的にゼロ調整を行います。測定ごとにゼロ調整をする煩わしさがありません。

新開発コア構造で、外部ノイズの影響を受けにくい

コアヘッドにシールドを設け、ノイズや外部磁界の影響を受けにくい。

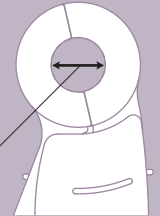
測定値が読み取りやすい

従来の微弱電流クランプは、測定値が安定しないため読み取りが困難でした。

SK-7831は、数値のふらつきを抑制する内部処理を行い、測定値が安定し、読み取りが容易です。

狭い所にクランプしやすい

エンジンルームの狭い箇所でもクランプしやすい、φ20mmの小型クランプヘッドと細身の筐体です。



最大φ20mm

SK-7831 測定例

暗電流の測定

暗電流とは？

エンジン停止状態でも流れる放電電流(時計、カーナビ、イモビライザー、電子回路のバックアップなど)のことです。

バッテリー上がりが頻繁に起こる場合は暗電流過多の可能性があるので測定が必要です。

- ① エンジンをOFFにしてから15分程放置します。
ドアランプ、ルームランプ、ヘッドライトなどが消灯していることを確認します。
※エンジン停止直後はECUが働いているため、正確に計測することができない場合があります。

- ② SK-7831のスイッチを、4000mAに合わせます。この時トリガーに手を触れない(クランプを開かない)でください。



- ③ バッテリーのマイナスケーブルをクランプします。



- ④ テスターに表示されている電流値を読み取ります。

オルタネーター充電電流の測定

オルタネーターとは？

交流で発電し、内部で整流して直流で出力する発電機のことです。

オルタネーターがトラブルを起こすと、充電不足によるバッテリー上がりの原因になるため測定が必要です。

- ① SK-7831のスイッチを、40A/200Aに合わせます。この時トリガーに手を触れない(クランプを開かない)でください。



- ② オルタネーターのB端子をクランプします。
- ③ エンジンを始動させます。



- ④ テスターに表示されている電流値を読み取ります。
※エンジンスタート後、20A～40A程度が表示され、徐々に下がれば正常です。エンジンスタート後も表示が変化しない。または大きな電流が流れたままの場合はオルタネーター不良の可能性がります。

測定項目マーク



交流電圧



直流電圧



交流電流



直流電流



抵抗



導通試験



周波数



静電容量



ダイオード



デューティー比



温度